

「40という数字の意味(1)」
—創世記から出エジプト記まで—

はじめに

- (1) ハーベスト・タイム 40周年記念メッセージシリーズ
- (2) シリーズ全体の基本命題
 - ①「40」は、神が民を試し、整え、使命へと送り出すために定められた期間。
 - ②それは裁きではなく、回復と前進のための「恵みの時間」である。

命題：「40」は偶然の数字ではなく、神が用意されたものである。
そのことを3つの事例から学んでみよう。

I. ノアの洪水の期間(創7:11~13)

Gen 7:11 ノアの生涯の六百年目の第二の月の十七日、その日に、大いなる淵の源がことごとく裂け、天の水門が開かれた。

Gen 7:12 大雨は四十日四十夜、地に降り続いた。

Gen 7:13 ちょうどその日に、ノアは、息子たちのセム、ハム、ヤフェテ、またノアの妻と、息子たちの三人の妻とともに、箱舟に入った。

1. 40日40夜の雨

- (1) 文脈：墮落が極みに達した世界
 - ①創6:1~7で神の子らが人の娘たちと結婚した。
 - ②ネフィリムという超人が誕生した。
 - ③「神のかたち」の破壊
- (2) 徹底的な裁きが下った。
 - ①同時に、新しい世界への移行期間でもあった。
- (3) 箱舟は、キリストの十字架の予型である。
 - ①箱舟の中にいる人と外にいる人の運命は対照的である。
 - ②「キリストのうちにいる」ことの幸いを知れ。

2. 40という数字は、「終わり」ではなく「始まりの前段階」

II. イサク40歳で結婚(創25:20)

Gen 25:20 イサクが、パダン・アラムのアラム人ベトエルの娘で、アラム人ラバンの妹であるリベカを妻に迎えたときは、四十歳であった。

1. 約束の子としての成熟

(1) 超自然的誕生

- ① アブラハム 100 歳
- ② サラ 90 歳

(2) 40歳で結婚するというのは、神の契約継承者として十分に成熟した段階に入ったことを示している可能性がある。

- ① イサクは、自分で妻を探しに行かなかった。
- ② しもべによって導かれ、神の備えによって妻を迎えた (創 24 章)。
- ③ 彼の人生は「神の主導」によって進んでいる。

2. 息子のエサウは、40歳で異邦人の妻を迎えた (創 26:34)。

Gen 26:34 エサウは四十歳になって、ヒッタイト人ベエリの娘ユディトと、ヒッタイト人エロンの娘バセマテを妻に迎えた。

Gen 26:35 彼女たちは、イサクとリベカにとって悩みの種となった。

(1) イサク

- ① 神の導きによる結婚
- ② 契約の系譜を守る花嫁
- ③ アブラハムの信仰を継承
- ④ 一人の妻
- ⑤ 神の時を待つ姿勢

(2) エサウ

- ① 肉的衝動による結婚
- ② 異教徒との結婚
- ③ 両親への配慮の欠如
- ④ 二人の妻
- ⑤ 霊的無関心

3. 「40歳」という同じ数字を用いて2つの生き方を描き分けている。

(1) イサクとエサウの対比

- ① 約束の系統を重んじる者
- ② この世的欲望を優先する者

(2) エサウの霊的成熟の欠如が露呈

①エサウは、真に価値あるものとそうでないものを見分けがつかなかった。

(3) 40歳は「成熟を求められる時」

III. モーセの三つの40年

1. 第一の40年 — 「自分は何者か」を学ぶ時 (使7:22)

Act 7:22 モーセは、エジプト人のあらゆる学問を教え込まれ、ことばにも行いにも力があ
りました。

(1) 人間的には完全に成功者だった。

- ①最高の教育
- ②王子としての権力
- ③軍事的学び
- ④行政の体験
- ⑤宮廷文化を体得

(2) しかしこの40年の終わりに、彼は失敗する。

- ①エジプト人を殺し、自分の力でイスラエルを救おうとした (出2章)。
- ②「神の召命」は正しかった。
- ③「方法」が肉的だった。

(3) モーセは、「自分にはできる」と思っていた。

①しかし神は、まずその自信を砕かれた。

2. 第二の40年 — 「自分には何もできない」を学ぶ時

(1) ミディアンの地での40年

①羊飼いととしての経験を積む。

(2) 出3章では、80歳になったモーセに主が現れる。

- ①ここでのモーセは、以前とは別人である。
- ②「私はいったい何者なのでしょう」(出3:11)
- ③40年前は、「自分が救える」と思っていた。
- ④しかし今は、「自分には無理です」と言う。
- ⑤この変化こそ、荒野の40年の目的である。

(3) 羊飼いの生活は、王宮とは真逆である。

- ①孤独
- ②無名
- ③単調
- ④忍耐
- ⑤静けさ

(4) 神はそこで、モーセを砕いた。

- ①神は「能力」を捨てさせたのではない。
- ②「自己依存」を砕かれた。
- ③モーセの教育も知識も経験も、後に全部使われる。
- ④ただし、「自分の栄光」のためではなく、「神の栄光」のために。

3. 第三の40年 — 「神ならできる」を学ぶ時

(1) 出エジプトと荒野の40年(80歳から120歳まで)

- ①モーセは神の器として用いられる。

(2) 最も偉大な働きは、最も年老いてから始まる。

- ①現代社会は「若さ」を重視する。
- ②しかし聖書では、神はしばしば長い準備期間の後に人を用いられる。

(3) この最後の40年でモーセは、巨大な使命を果たす。

- ①十の災い
- ②紅海
- ③シナイ契約
- ④律法授与
- ⑤幕屋
- ⑥荒野での導き

(4) 「モーセの力」ではなく、神の力が中心である。

- ①「わたしはある、という者である」(出3:14)
- ②神の力による奉仕、召命の完成、神の栄光の現れ

今日の信者への適用

1. 現代人は「すぐ結果」を求める。

- (1) しかしモーセを見ると、神は80年かけて一人を整えられた。

- (2) しかも、その大半は「目立たない期間」である。
- (3) 神にとって、荒野の40年は、王宮の40年よりも重要だった。
- (4) 神は「有能な人」以上に、「砕かれた人」を用いられる。

2. モーセの人生は、3つのことを教えている。

- (1) 待つこと
- (2) 砕かれること
- (3) 神に依存すること
 - ①最終的には、「人の力ではなく、神の力によって御業は進む」。